

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	排球部報 : 部報
Author(s)	菅生
Citation	龍南, 229: 114-115
Issue date	1934-11-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7233
Right	

て音楽家たる紙恭輔氏が當られ全く好都合だつた。

以上を以て東上視察の報告を終り、次で龍南の誕生の一路に就いて言及したい。

現在の龍南會各部は全く部員獲得難に悲鳴を上げてゐる。全國高校中第二位の生徒數を存し、光榮ある傳統を擁する我が五高が、斯くの如き問題に當面するのは誠に歎すべき事であらねばならぬ。龍南人の龍南會そのものに對する無關心と、利己的な自由主義と、各部の不振とが、現龍南不振の動因となつたものと考へられる。

而して以前一級四十名であつた定員が本年よりは三十名に減じ、二年後に於ては總員二百四十名の減少となり、部員獲得難は其の極に達し、龍南會を現狀の儘放置せしむる時は、恐るべき結果となるは自ら明かである。此處に於て現龍南の誕生を計る唯一の血路は、今や全部員制度を制定する以外には絶對に無いと吾人は信ずる。

幾度か中原に鹿を射止め、天下に雄名を轟かせたる光榮ある龍南の現在の衰狀を見よ。其の陣容の貧弱なるを見よ。諸子は特に龍南が偉大なる傳統に背き、一步一步頽廢の道を辿らんとするを默視するや。實に現龍南の革新は我等龍

南人の先輩に對する義務であり、後輩に對する責任であらねばならぬ。

一度び全龍南人を各部に分屬せしむるを得たならば、各部の殷賑隆盛は勿論、我等の自治團體たる龍南會に對する會員各自の認識を増し、その雰圍氣を淨化し、軟弱精神を拂拭して龍南會の向上を誘導し、更に個々の精神体格の練習に於ては將來雄飛の根底を造り、尙感激の部生活に青春の意氣を吐露するを得、光榮ある龍南の聖域は斯くして剛毅朴訥本來の道に邁進するを得るであらう。運動盛んなれば學業も亦興る。

吾人は今や衰頹し行かんとする龍南を前にして、其の誕生唯一の血路は全部員制度の確立にありと絶叫する。願はくば龍南人の誠心誠意もて、弊害なく而も完全に一日も早く此の制度の實現されん事を。終り

排 球 部 報

管 生

熱と意氣に燃ゆる排球部員一同血と汗に彩どられて忍苦

一年或は二年を送り、健全なる五高魂と流汗ほとばしる赤銅の腕とを武器として、今夏京都での全國で最高的大會であります全國高專排球大會に出場しました。

我部の戰跡を述べます。

第一次戰は東部高校の雄浦和高校と對戰し、輕く二セツトをものにして凱歌を挙げました。スコア (二十一―十六)

第二次戰は全國高校の豪であり、五高の宿敵である三高に當りリードしながら二セツト共敵に取られました。スコア (十七―二十一)

第二回戰は強敵廣高と對戰す。前日五高に勝算ありとの世評を裏切り、その日特にコンディション悪く敗退しました。

顧みるに全國のバレーの技術に於ける相違はスコアにより明かなる如く殆んどないのです。然るに我部は來年こそ五高排球部の黄金時代であります。この時にして全國征覇は目睫にありと言ふことが出來ませう。吾等一同は常緑の原東光原コートで孜々として技道に精進してゐます。

眞に龍南愛に燃ゆる八百の健兒諸君よ!! 今後の我部の前途を祝福して尙一層の御聲援を願ひます。

陸上競技部々報

綱 協 記

萬象默して秋氣正に酣に、紺碧の空高く澄み、秋風微に黃葉をゆらく、九月三十日(日曜日)水前寺グラウンドに於て、熊本三高專陸上競技大會行はる。意氣と熱とに満てる吾が龍南健兒、五高魂を遺憾なく發揮し、完全に高工、藥專をして再び立つ能はざらしむ。

戰績次の如し。

一〇〇米 戸島(文三乙)騎虎の勢にて大地を蹴立て、箭の如く一文字に獅突猪走し最後の頑張り物凄くテープを切る。タイム一一秒九、

一、五高 二、藥專 三、高工

二〇〇米 黃(文一乙)見事な輕快なフォーム、韋駄天走にてゴールにとび込む。タイム二三秒七、浦野(理二甲)三)日頃の實力出す、惜しくも三着となる。

一、五高 二、藥專 三、五高

四〇〇米 黃、得意の種目、同君の右に出づる者なく、ス